

中川正春の永田町かわら版 2005/1/18 第228号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所

※配信不要の方はお手数ですがご連絡ください。

三重/〒513-0013鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京/〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館428 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○お正月もダッシュ、ダッシュ

明けまして、おめでとうございます。

暮れからお正月にかけては、私にとって一年で一番大切な毎日になります。年の暮れはお餅つきや忘年会、27日の浄土真宗お七夜まいりなど、各地で沢山声をかけてもらいながら大晦日の立正佼成会の除夜の鐘とともに始まる勤行会で、一段落。お正月、夜明けとともに、5時からスタートする実践倫理佼成会の朝起き会が、すがすがしい一年のスタートです。毎年お参りする氏神さんの境内で、皆さんの一年の抱負を聞いたり、自治会の初よりで新年の挨拶をしながら地域の声を聞くことで、永田町ボケをしていた自分の頭が矯正されてくるのが分かります。毎日20箇所を超える地域の初談会が向こう三が日とそれに続く日曜日の日課になっています。元気、元気。

○きびしい国民の声

国民の声ランキングを作るとすれば……

- ① 国民は、政治家の言葉と人格を信用していない。(これはきつい試練です。)
- ② なぜ、そんなに海外に援助をするのか。多額なスマトラ沖地震の関連など、海外に支援する金があれば、国内の苦しい人たちや経済状況を改善する事が先ではないか。
- ③ 年金の解決について、全く納得していない。不安である。
- ④ 治安の悪化と続く災害に不安が大きい。日本の危機管理は、大丈夫か。

「言い訳や説明よりも、具体的な結果を出せ。このことを、しっかり意識しないとダメだよ中川さん。」という言葉が、身にしみます。

○今こそアジア、という気持で、慌しく訪中。

1月13日から3日間、中国に行ってきました。憲法調査会で私たちは、「日本の安全保障は、アジア重視を実現することだ。」と、言い切っているだけに、中国と仲良くしなければ、民主党の憲法も絵に描いたもちです。その思いをもって、日本関係の政策立案者と意見交換をしました。

国際関係研究所の楊伯江日本研究所所長や外交部の孔鉉祐副局長、中国共産党中連部の劉洪才副部長などには共通した認識があります。

「日本とアメリカの同盟関係は、当然のこととして認める。しかし、それが中国を敵対視することが前提となっている同盟に変質することがあってはならない。アメリカに、その意図があるとすれば、日本は、正しい主張をして欲しい。日本がアジアを重視する事は歓迎。今の北朝鮮を巡る6カ国協議が、将来のアジアのあるべき姿を考える北東アジア安全保障戦略協議に発展していくことが望ましい。そうした前提の中で、日本が憲法9条が実態とかげ離れた状況にあるから、見直すということであれば、理解ができる。」

彼らは、小泉さんがアメリカ一辺倒で突き進み、靖国で虚勢を張りながら総理大臣をしている間は、中国とのホンネの会話はできないと、言いたいのだと思います。そうした話に対して、一緒に行った白眞勲参議院議員(在日コリアンで、元朝鮮日報の日本支社長)が、現在のヨンサマと韓流ブームを引き合いに、韓国人の日本観を説いて、中国もこれに見習うべきだと強く訴えていたのがうれしいかぎりでした。

○所得税改革で、国民に税の選択肢を

私は今、所得税について、新しい減税をうたえています。財務省の独占的な使い方に競争原理を持ち込んで、国民に使い方の選択ができる緊急減税2つです。

- ① 新潟地震やスマトラの津波などに義捐金を出した場合には、それを所得税から控除する特別措置法
- ② 地域の自治会などコミュニティー運営事業に負担金を出す場合には、その分を所得税から控除できる法律。

住民は、国に税を納めるか、それとも地域社会や特定の災害支援に納めるのか選択できる。こうした減税を増やしていけば、国が安易な税金の使い方が出来なくなる。そんな思いをもって、議員立法を作ろうと挑戦しています。財務省やその族議員は、目をむいて反対するでしょう。楽しみです。

